

町の暮らしと生活改善

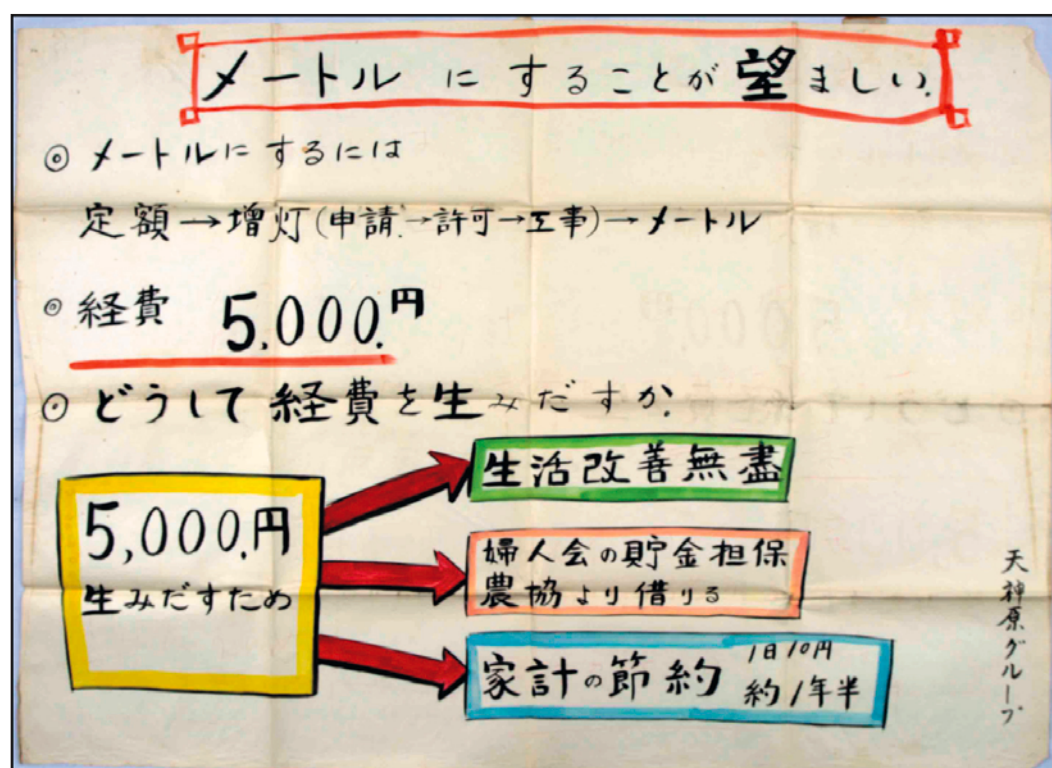
町の暮らしについて調べた2年目の学級

昭和30(1955)年度に行われた婦人学級では、学級生がグループにわかれ、それぞれが自分たちの暮らし・生産活動や町の産業等の現状について調べ、その結果をまとめる調べ学習が進められました。

グループでの研究成果

西町地区の「ときわ」グループは、稲取の物価は高いといわれるが本当にそうなのか、という関心から、町内・近隣町村の物価調査を行い、その結果を地域ごとに色分けしたグラフにまとめています。この調査で、生産地に近ければその商品の値段は安いはずなのに稲取町では魚が高いことを発見したグループ員は、それは何故なのかと漁協の組合長に話を聞きに行き、「生産者のために1銭でも高く売るように努力しているからこの土地でも安くは売られない」という回答を得る一方、「どうしたら私たちは安く食べられるか、これは今後に残された問題だと思います」とまとめています。

天神原(てんじんばら)地区のグループは、電気の使用料金がどのように計算されているのかについて調べ、定額制の場合とメートル(メーター)制の場合を比較した結果、メートル制の方が望ましいという結論を得て、その上で、メートル制への切り替えに必要な5,000円の費用をどのようにまかなったらよいかについて、具体的な方法も提案しています。



天神原グループによる電気の使用料金に関する提案
(婦人学級第2年次(昭和30年度実施)の学習成果物, 実物の寸法:79x110cm)